韓国国立大学

慶北大学校との学科間交流

本学の教育理念の一つに「グローバルな視野を持ち、国際的な活躍が期待できる人材の育成に寄与すること」が掲げられており、国際的な視野をもって活動できる高度専門職を育成する学部教育、大学院教育を実践しています。そしてこの度、栄養学科が韓国国立大学である慶北大学校食品栄養学科/ Faculty of Food Science and Nutrition, Kyungpook National Universityと学科間協定を締結し、国際交流が開始されました。

本学から研究推進･知的財産センター長:藤田修三教授、栄養学科長:吉池信男教授、向井友花助教、国際科:川内規会講師が慶北大学校へ出向き、本学栄養学科と慶北大学校食品栄養学科の交流協定を締結しました。吉池学科長と姜(Kang Mi-Young)学科長との調印式を経て、Center for Food & Nutritional Genomics (SRC) のセンター長Choi Myung-Sook教授やLee Hye-Sung教授をはじめとする教授陣や大学院生らに見守られながら、両学科間の国際交流がスタートしました。

最初の学術交流として、調印式後に合同セミナーが開催されました。大邱市にある山格洞キャンパス内で両学科間の研究発表が行われ、慶北大学校からは、大学院生の演者 Catherine Waje Rico 氏が "Modulatory effect of aged black garlic on lipid metabolism and antioxidative status in high fat-fed mice" と題し、また、本学から向井助教が "Physiological roles of azuki bean (Vigna angularis) polyphenoles in oxidative stress and inflammation in rats with hypertension" と題して発表し、教員と大学院生と初の相互の交流が行われました。

合同セミナー開催後、大学施設および研究施設見学を行い、大学、学科、学生の様子や研究環境等の説明を受け、今後の学術交流･国際交流の方向性を検討する情報を得ることができました。

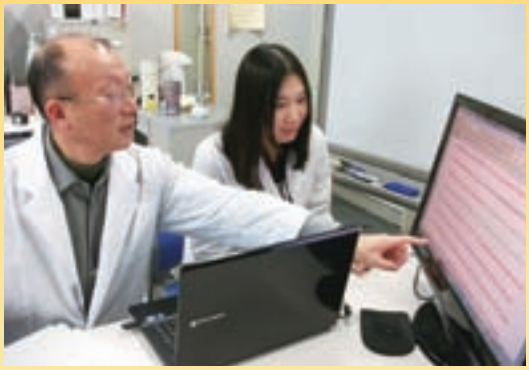
慶北大学校は、1923年に師範学校として設立され、のちに師範大学、医科大学、農業大学、教養大学、法律･政治学大学などを統合して1951年に総合大学となりました。現在では、医学部、農学部、法学部、生活科学部といった15の学部と11の専門大学院を有し、総学生数約37,000人が学ぶ韓国でも有数の国立大学です。また、世界20カ国を超える国の70以上の大学や研究施設と交流協定を締結し、学術交流が盛んに行われている大学です。本学としては、教員･学生等の研究面から学術交流をスタートし、両国の栄養学に関する相互理解と発展、および両大学の発展を目指して交流を深めていく予定です。

大学院

健康科学研究科のページ

独創的研究～研究者の偶然の発見～

健康科学研究科長　教授　松江（まつえ）　一（はじめ）



松江研究科長が大切にしている思い、それは「独創的研究」。
人がやっていない研究を情熱をもってやることで、
「偶然の発見」が得られる喜びがそこにあると言う。
研究科長曰く、それは「発見でしびれる」という快感を体験すること。
天才は「先見の明」で成果を予測できるが、一般科学者は情熱と体力で数をこなすことが近道。自分と異なる専門の人と良い融合(共同研究)ができればさらに高見に上れる。変わらぬ真理に結果を求める実験科学系と、刻々変化する現場にタイムリーな方向や施策を求める公衆衛生学や社会科学との組み合なども大切と言う。
「指示通りに行ったからうまく行くとは限らず、逆に学生の失敗が思わぬ成功や発見につながることもある。」これは研究科長自身も「イカ墨やシジミの研究」で「偶然の発見」をしてきたから言える一言なのです。
今回のボタンイボタケからの新規抗がん物質の発見もそのひとつ。
研究し、発表し、論文にし、学術的かつ社会的貢献が第3者に認められれば、自ずと世界の最先端につながると言う。
大学院で、興味とやる気を持ち、「独創的研究」を行い、共にしびれ、「新たな未来」を開いて欲しいと言う。